

III. 贈与・遺産の有無は不動産に反映

実際に贈与・遺産を受けたことが有る夫婦と無い夫婦について、2005年における資産等を比較すると、図表 III - 1 のとおりである。

贈与・遺産を受けたことが有る夫婦は無い夫婦より、正味資産（純資産）が多い。その内訳をみると、贈与・遺産を受けたことが有る夫婦は不動産が大きく、持家率も高い。一方、金融資産は多いものの、住宅ローンを中心に借入も大きいため、相殺されている。このように、贈与・遺産の有無は、持家等の不動産に反映されている。

図表 III - 1 贈与・遺産の有無別の資産（2005年）

	平均	贈与・ 遺産有	贈与・ 遺産無
不動産	480	877	366
金融資産	240	315	218
預金	236	311	215
有価証券	3	4	3
借入	-450	-552	-421
住宅ローン	-428	-520	-402
他のローン	-22	-33	-19
正味資産	270	640	163
贈与・遺産	132	590	0
夫の親から	110	491	0
妻の親から	22	100	0
持家率	0.47	0.64	0.42

注1) 対象は2005年に36～46歳の女性(有配偶継続)の夫婦でサンプル数は197である。

2) 持家率は夫または妻が住宅の名義人に含まれる者の割合であり、住宅の名義が親等である場合も含む通常の持家率（総務省「家計調査」等）よりも低い。